

## 広島県におけるテイネニガクサの初記録

池田 節子

広島県廿日市市

### The First Records of Germanders *Teucrium teinense* from Hiroshima Prefecture

Setsuko IKEDA

#### 報告

テイネニガクサ *Teucrium teinense* はシソ科ニガクサ属の北方系植物で、北海道、兵庫県氷ノ山以北の日本海側に分布している（大橋ほか 2017）。近隣では鳥取県若桜町に分布している（鳥取県 2023）。近年のシカの食害などにより、絶滅のおそれが高いため、環境省により準絶滅危惧に（「環境省レッドリスト 2020 の公表について | 報道発表資料 | 環境省」, <https://ikilog.biodic.go.jp/Red/booklist>, 2023 年 8 月 4 日確認）、鳥取県により絶滅危惧 I 類に選定されている（鳥取県 2023）。

広島県廿日市市において広島県で初めてテイネニガクサを確認したので報告する。2022 年 7 月 10 日に廿日市のスギ林中の林道沿いの林縁で、ササ属の一種 *Sasa* sp. やアキチヨウジ *Rabdosia japonica* などに混じって生育するテイネニガクサを確認した（図版 1-A）。一見、ツルニガクサ *T. viscidum* var. *miquelianum* に似るが、葉は大きいもので長さ 8cm、幅 3cm、葉柄 2cm、表面にはまばらに長毛があり、裏には葉脈に沿って長毛が見られた（図版 1-B）。茎は高いもので 30cm あり、開出毛を散生し、節付近では毛が目立ち、中には下向きに曲がったやや長い毛が見られた（図版 1-C）。花序は約 3cm あり、密に花をつけ、下部の苞は葉よりも小さく複数の鋸刃がある（図版 1-D）。萼には細い腺毛がある（図版 1-E）。これらの形態的特徴にもとづき、テイネニガクサと同定した。10 月 26 日に結実を確認した。分果は長さ 1.1mm から 1.4mm（図版 1-F）。2023 年 7 月 5 日に茎の高さが 50cm になる個体を確認した。この場所には 50 株近くあり、林道沿いを調査したところ、5 株から 10 株の集団で生育していた。それらのほとんどは茎の高さは 20cm くらいで花数が少ないものが多かった。今回、確認した個体の中には高さ 50cm のものがあったが、北海道や東北の個体はさらに大きくなるという（大橋ほか 2017）。今回の確認により、広島県廿日市市がテイネニガクサの西限となる。

本報告の基礎となった標本は国立科学博物館および芸北高原の自然館に収蔵されている。

#### 謝辞

テイネニガクサの同定をしていただいた国立科学博物館名誉研究員の門田裕一博士と門田博士への仲介の労をとられた広島市の小田多美恵氏に心からお礼申し上げます。

#### 引用文献

大橋 広好・門 田裕一・邑田 仁・米倉 浩司・木原 浩（2017）改訂新版 日本の野生植物 5：113-114. 平凡社、東京

鳥取県（2023）レッドデータブックとっとり第 3 版 2022 -鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物-。鳥取県



A: 生育状況 2022年7月17日  
 B: 葉 2023年7月5日  
 C: 茎 2022年7月17日  
 D: 花 2023年7月5日  
 E: 萼 2022年7月17日  
 F: 分果 2022年10月26日  
 G: 5月の状況 2023年5月8日